

美祢線沿線地域公共交通協議会 第1回会議 議事概要

- 1 日 時 令和7年10月20日（月） 14：30～15：30
- 2 場 所 県庁4階 共用第1会議室
- 3 参加者 出席者名簿のとおり
- 4 内 容

■ 会長挨拶

皆様方におかれては、御多用の中、本会議の委員をお引き受けいただくとともに、本日の会議に御出席いただき、感謝申し上げます。

J R美祢線は、沿線住民の日常生活はもとより、山陽と山陰を結ぶ広域ネットワークの一部を担う路線として、本県の観光振興にも重要な役割を果たしてきた路線であると考えている。しかしながら、令和5年の被災から2年を経過した今も、沿線地域の住民の皆様や観光客は、代行バスによる不便な移動を余儀なくされている状況が続いている。こうした中、本年8月、復旧までの期間や利用者の利便性を勘案し、バス高速輸送システム、いわゆるBRTによる復旧を目指すこと、また、その実施に向け、法定協議会を設置し、新たな地域公共交通計画を策定することについて、県と沿線3市で合意したところ。本協議会は、その合意に基づき、県と沿線3市により共同で設置されたものであり、今後、地域公共交通計画の策定に向け具体的な議論を行っていくこととなる。

沿線住民の生活や、本県の観光振興にとって欠かせないJ R美祢線を、地域にとってより良い形で早期に復旧し、維持・活性化を図っていくため、委員の皆様とともに、積極的に取組を推進してまいりたいと考えているので、御協力をお願いする。

本日は、第1回目の会議ということで、今年度の事業計画や、地域公共交通計画の策定が議題となっている。忌憚のない御意見や御助言を賜るようお願いする。

■ 委員紹介

- 出席者名簿により紹介

■ 議事

(1) 報告事項

第1号 JR美祢線に係る経緯及び美祢線沿線地域公共交通協議会について

- 事務局より資料（P2～4）に沿って説明
- 質疑等なし

(2) 議案

第1号 監事の選任について

- 委員の互選により、公益社団法人山口県バス協会 藤原委員を選任

第2号 令和7年度事業計画・予算について

- 事務局より資料（P7～9）に沿って説明
- 質疑等なし
- 議案第2号について、提案のとおり承認

第3号 地域公共交通計画について

- 事務局より資料（P10～20）に沿って説明
- 議案第3号について、提案のとおり承認

【質疑・意見等】

(榊原委員) 利便増進実施計画を策定されるということだが、策定にはある程度時間を要すると思われる。できることは早めに始めることが大事だと思う。快速バス、通学バスの取組について、利用促進協議会において実施されてきたが、今後、できることを、現行の枠組みを使って実施できるか。

(事務局) 利便増進実施計画は策定に時間を要するものであるが、現在、利用促進で取り組んでいることはある。今後の取組については検討したい。

(榊原委員) 今回、BRTの一般的な事例や費用等について説明があった。費用は確かに重要な要素だと思っているが、費用の大小に伴って機能も変わってくると思う。負担であると同時に地域にとっての投資であるという点も合わせて考えることが重要ではないか。

(3) その他委員発言

(飯田委員) 山口県並びに美祢市、長門市、山陽小野田市、沿線3市において美祢線沿線地域公共交通協議会を設立いただき感謝申し上げます。設立に携わられた関係者の皆様および御出席の皆様に御礼申し上げます。今後の運営についてもよろしくお願いする。

弊社としても、地域の皆様の意見をしっかりと踏まえながら、地域のまちづくりに併せた「刷新感のあるBRT」で一日も早く復旧し、沿線の皆様はもちろん、観光や交流も大事だと考えており、利便性と持続可能性を高めることを目指したいと考えている。刷新感という言葉は、弊社としては、地域の皆様やお客様にとって「良くなった、乗ってみたい」と思っただけのような、それから未来に資するようなBRTを目指していきたいと思っており、事務局から説明もあったが、機能や性能については、定時性、速達性、輸送力や利便性等が大事だと思う。将来的に自動運転を目指して、弊社の他エリアで行っている、自動運転や隊列走行の実証運行なども美祢線に取り入れることができると考えている。それから、地域の皆様に愛着を持っただけのように、地域の皆様の御意見も踏まえながら車両や設備、施設のデザインや沿線全体のブランディングも、まちづくり、BRTとを合わせてできればと考えている。

そういった観点で2点確認したいことがあってお尋ねするが、美祢線利用促進協議会においても、早期復旧が皆様の総意であったと思っており、冒頭、平屋会長からも早期復旧についての御発言があった。事務局からの説明もあったように、早く、補助制度も活用しながら、前広に計画的に検討していくことが大事だと思っている。

そういった意味では、いろんな意見を出していただく際に、BRTにも先ほど申し上げたようにいろんな機能や性能があるので、私どもとしては出来上がったものについて、JR西日本のグループにもバス事業者があり、そこが中心となって運行してまいりたいと思っているので、こういった時期に、

どのレベルのものを決めていくかというところのスケジュール感が大事だと思っている。協議会の要綱にもあるように、幹事会、部会、ワーキンググループと会議体があるので、どの会議体でどのようなことを検討していくのか、役割分担が大事だと思っている。私どもが色々と勉強させていただいたもの、本日は事務局の方からBRTの事例を紹介いただいたので、それも踏まえて、私どもから、たたき台を提案させていただければと思っている。1、2週間時間をいただければ、今月末くらいにはたたき台みたいなものを提案できると思っている。どのように進めればよいかということをお教えいただければと思っている。

2点目は、今年の4月から代行バスについて、一部快速や高校生の通学のための増便を地域の皆様と一緒に実証しているが、榊原委員からもあったように、できることはどんどん前広に進めていくことは大事だと思っているので、今の代行バスをそのままやるのではなくて、進化させながら進めていくことが大切だと思う。そうはいっても運輸局などの認可手続等必要であるので、4月から始めようとする、年内には一定の案ができて、年明けには届け出をするということになるかと思う。高校生の進路、高校の選択肢にも影響があると思っているので、そういうことは部会で決めていくということであれば、明確にさせていただいた方が議論も進めやすいのかな、と思う。

この2点教えていただければと思う。よろしくお願ひしたい。

(事務局) 今月末くらいまでに提案いただくということだが、内容により、部会か幹事会か等を含め検討させていただく。さまざまなところで検討して、最終的には本協議会に諮って決めていくことになると思う。まずは事務局の方に相談いただき、その内容により検討・調整させていただきたい。

次に、代行バスの関係については、今までもJR美祢線利用促進協議会で実施してきた内容になるので、具体的な議論は利用促進部会で行いたいと考えている。部会において、さまざまな検討を進め、国との調整を進めていくことを想定している。最終的な実行、最終決定は本協議会の場ということになるが、調整や議論については利用促進部会で進めてまいりたい。

(飯田委員) 1点目の方は、今月末までに事務局の方にまずお示しするということは理解したが、12月5日までに構成員の方々からの意見を募ると思う

が、私どもが出したものについて意見を出す際の参考になればと思うので、そのあたりの調整をお願いしたい。

(事務局) 承知した。

(飯田委員) 代行バスについて、運輸局の認可の手続きの関係があるので、2～3か月前には決めないといけないと思う。部会で主に議論して、最終的に協議会で決めるということであったので、この時間軸についても是非よろしくお願いする。

(事務局) その点についても承知した。そういったスケジュール感を持って、進めていく。

(平屋会長) スピード感をもって議論を進めていくことについては一致していると思う。その時々状況を踏まえながらより機動的な対応も考え、協議会の場だけでなく、部会や幹事会、ワーキンググループなど使い分けながら議論をしていければと思う。御協力をお願いしたい。

(篠田副会長) 平屋副知事をはじめ、事務局におかれては、本協議会の開催に向けて、多大な御尽力いただいたことに対し、心から感謝を申し上げる。先ほど、スケジュール感についての話があった。当然スケジュール感は大事である一方で、住民や関係者のコンセンサスをどう得るかということも非常に大事だろうと思っている。利用者にとって、復旧して本当によかったと言ってもらえるような仕組みを作っていかなければならないので、多くの方の御理解・御協力が必要だと感じているところである。本市は令和4年に美祢駅周辺をまちづくりの拠点として整備していこうという計画の策定に着手したところ、J R 美祢線の被災を受けたところである。したがって、計画には変更せざるを得ない部分もあるが、B R Tでの復旧であるのでそれに沿ったようなまちづくりに資するように、J Rにも御協力・御支援いただければと、考えている。

そこで、確認したい事項がある。今後も定期的な情報交換をしていただけるということだが、まず1点目、住民、利用者のコンセンサスも色々な御意

見を聞いていかなければならない。住民説明会も開催されることとと思っている。事務局である県当局も御出席いただけるものと思っているが、確認させていただきたい。

それと先ほど、たたき台を利用促進部会で検討するという話があった。利便増進計画はわかるが、冒頭平屋会長が言われた二次交通としての機能をどう持たせるかという視点では、公共交通計画にどう盛り込むかということを考えれば、計画のたたき台をどこで叩いていくのかが見えにくいというのが率直な感想である。これについて質問をさせていただきたい。

(事務局) まず住民説明会を開催される際に、事務局からも出席するのかということだが、可能な限り出席させていただきたい。

2点目について、公共交通計画をどこで議論するのか、という点について、公共交通計画は協議会で最終的には決定していくものになるが、内容によっては、平屋会長からも申し上げたように、協議会、部会、ワーキング等を使いながら議論していくことになると思う。詳細については内容を踏まえ検討してお示ししていきたい。

(江原副会長) 本日、第1回目の法定協議会を事務局はじめ、関係の皆様の御協力をいただき、滞りなく開催できたことに深く感謝申し上げる。美祢線が被災してから、2年以上が経過している。本市としては、JR美祢線が市民にとって、より利便性が高く未来感、刷新感のあるBRTで1日も早く復旧できるよう、スピード感をもって協議を進めていただきたいと考えている。先ほど、事務局から説明があったが、BRTで復旧するに当たっては、今後、具体的な計画を策定していくことになる。JR美祢線は、地域住民の日常生活に不可欠であるとともに、観光利用や二次交通との結節など、山陽と山陰を結ぶ地域間交流の促進を図る重要な基盤でもある。特に長門市は厚狭駅から一番遠いところにあるので、是非、できるだけ早くしっかりしたものを作っていただきたいと思う。そして、長門市には長門湯本温泉、青海島をはじめ多くの観光地がある。併せて、道の駅センザキッチン、金子みすゞ記念館など集客力のある施設を多数抱えているので、新幹線厚狭駅から美祢線BRTへの接続を強化し、観光面からの利用促進を図っていききたいと考えている。また、美祢線BRTの終点となる長門市駅周辺のまちづくりについても、復

旧と一体的に取り組む必要があると考えている。

当然、復旧にかかる費用など計画の実現性を踏まえた上で、検討を重ねていく必要があるが、本協議会の中で、委員の皆様としっかり議論し、観光ネットワークとしての機能も十分に発揮できる美祢線BRTを実現したいと考えているので、御協力をよろしくお願いします。

(藤田副会長) このたびは、山口県はじめ多くの関係の皆様御協力により法定協の設置となったこと厚くお礼を申し上げます。

2点ほど話をさせていただく。1点目は復旧費用についてである。事務局からの説明の中で、イニシャルコストの要素等について説明があった。専用道を設置するか否かで復旧の費用が大きく異なるということである。その設置の可否についての議論は、設置の状況にもよるが、それぞれの負担割合に関わる重要な審議が必要になると予測がされる。協議会において、慎重な審議・また判断することが重要になると考えている。

2点目は厚狭駅の機能強化についてである。先ほど、飯田委員から刷新感のあるBRTを、という話もあり、江原副会長から、観光面での利用促進の話もあった。本市としても、美祢線の沿線地域を周遊する観光客の増加を図るためにも、広域ネットワークとして、美祢線の起点となる厚狭駅への速達性の高い新幹線、さくら等の停車など、厚狭駅の機能強化について、この協議会であわせて御検討いただくことを願います。

(平屋会長) 各委員の方から発言のあったとおり、BRTによる復旧を1日も早く実現していくということを目指しつつ、一方で、榊原委員から発言もあったとおり、地域にとっては将来に向けての投資であり、地域住民の方々としっかりと議論する必要があるし、費用対効果についてもしっかりと議論をする必要があると思う。そういった観点から、地域にとってよりよい形とは何なのか、ということについて、丁寧に、かつスピード感を持って今後の議論を進めてまいりたい。委員の皆様には引き続き御協力を賜るようよろしくお願いします。事務局には、今日の意見を踏まえ、協議会の全体会議だけにとどまらず、部会、ワーキング、幹事会など活用しながら議論を進めていくことについて、調整をお願いしたいのと、計画の骨子案の作成を進めていただきたい。

■ その他

計画に係る委員意見の照会について

- 事務局より、計画の骨子案作成に向け、検討すべき事項や視点等を別添の様式に記入の上、提出いただくよう依頼